

編輯室の内外

狂風の耽々たる三月の季節となつた、第七十帝國議會開會中なるも政黨内部の摩擦あるのみにて存外に平穩無事なるべきを考へながら編輯に従事した。號を重ねるに従ひ地方よりの通信益々多きを加ふことは編輯子の頗る快心を覺ゆる次第である。

林内閣の大藏大臣結城豊太郎氏は馬場財政に修正を加へんとの意圖を有し林首相も諸政策の検討を爲さんとし七日開帝國議會の休會を奏請して二月十一日再會することとなつたが結城財政の修正は矢張暫定的のものであつた。即ち馬場案の三十億四千萬圓の豫算額に對し二億六千八百餘圓(内四十八百萬圓の軍事費の留保)を減少し總額二十七億七千萬圓程度となしたのである、之れ物價の騰貴を防止すると赤字公債の發行額を減額せしめんとするものである。而して之れに伴ふ稅制案も修正を加へたものと傳へらるゝが恐らくは議會は無條件にて之を協贊することに吝ならざるであろう。併し結城藏相の財政意見を取り入れたる來十三年度の豫算案は如何に編成せらるゝか願くば大手腕を振ふて將來の見透を立て、健全なる財政を確立せられんことを今は議會の論議の眞只中に在るので帝國議會としての職能が如何に表現せらるゝかは想像する外はないが衆議院の攻防戦線に

於ては宮脇長吉氏の肅軍問題、二・二六事件に關する詰問、河上丈太郎氏の結城財政にイデオロギーのないのを難詰、尾崎行雄氏の議會擁護の雄辯の外、耳をそばだてるものがない、而かも、聯戦備の俸力と中華民族的の抗日熱力と重工業に關する陸軍の獨裁の企圖を耳にしたる政客群の動向の立憲政治とか政黨政治とかの言論回遑状態は前代未聞であつて政治混亂の低氣流の擴大が思はせらるゝのである。

二月十一日紀元の佳節に當り文化勸章の制度が公布せられた、從來科學、文學、美術、音樂等の分野に對し我國の政府當局は顧みる所がなかつた。此勸章制度は廣田前首相に依つて考案せられたものが、林首相によつて「古來固有の精神歴史等に基く文化」を説き「時世の進歩に應じて一層其の精華を發揚すべきことを語りしめられた、斯界に取りては喜ばしき福音であるが其の制度の適用に關しては最も嚴正なる検討を加へなければならぬ、最も嚴正なる検討の事故を惹起するを保し難いのである。

大阪市に於ては四ツ橋畔に電氣科學館を建設した、其の五階は電氣に關する原理館四階は照明に關する應用館、三階は電力並に電熱に關する應用館、二階は弱電流並に無電に關する装置を爲す弱電無電館、一階は全部電氣陳列館とし、本學館の特異なるのはプラネタリウム(天象儀)である、即ち

六、七、八階及屋上に向つて一の特殊のドームを造り天體の模様を現はす装置のプラネタリウムを設置して居る點である、之に依つて時間と空間を超え完全に天界を征服せんと人類の睿智を表現して居る、寔に近來稀有の快心事である。

第一に金を棄つべきか第二に名譽を棄つべきか第三に生命を棄つべきか津川氏の三棄主義は共鳴すべきか一笑に付すべきか生命もいらぬ名もいらぬ金もいらぬとの名句を述べた大西郷に教へを乞ふの外なし(洩)

定價一部	五十錢
一ヶ年分	金六圓
發行所	東京市麹町區外櫻田町一番地内務省內社団法人道路改良會
電話	銀座座分(四)二七
發行所	東京市世田ヶ谷區北澤五丁目七五二
編輯者	小島
印刷所	東京市小石川區諏訪町五六
印刷者	常磐印刷所
	奈良直一